

社団法人日本図書館協会教育部会 ニュース・レター No.3.4

事務局・東京都台東区上野公園 日本図書館協会



I. 教育部会 昭和35年度事業計画

規定第3条にある「図書館学教育の充実に上をはかるための諸問題を研究」を進めていくためには、次のような活動を予期しております。(その成否は、会員諸氏の御協力如何にかかっておりますので、よろしく願います。)

1. 図書館学概況一覽、準備会世話人が昭和33年7月現在で調査した成果は、ニュース・レター第1号にあります。その後の増設、変更についての情報の収集。
2. 各講義内容の分析調査。
3. 図書館学教育、図書館員養成関係に関する内外資料の紹介。
4. 関係法令、特別報告、試験問題等会員に興味あるものの編さん発行。
5. 会員相互の意見交換のための会合、資料の貸借、複写等の便宜を図る。
6. 非协会会员である図書館学教育担当者への呼びかけ、部会員200名より400名への裾野運動。

記 事

3月11日(金)午後2時-5時

昭和35年度事業計画、国立大学専門図書館販賣採用制度の件、その他を討議するために例会において有志、幹事の会合を用

催。

席上、昨年度名古屋大会における決試希望事項の必置を討議。文部大臣に陳情書を提出することを再確認。その文案起草を権名六郎、藤川正信両氏に委託。

3月15日(火)午後1時-8時

協会理事会、34年度事業計画説明、ならびに文部大臣に提出の陳情書の紹介、大臣に手交の方針。また大会の決試であるので理事長各の公文書にして理事長に御足労を願うことの承認を得た。

3月22日(火)午前11時30分-午後6時30分

理事長、権名六郎氏と同僚の上文部省訪問。大臣は閣議に引続き国会審議のため不在。秘書官と次官の連名にて春山大学課長に面会、陳情書を手交。理由、趣旨につき理事長から説明。

その後権名六郎氏と巻島担当官に面会、調査資料を提供して退室。

午後 社会教育局の石田事務官、初等中等教育局の深川事務官に陳情書提出の事情連絡。

(以上中村記)

昭和35年3月15日

文部大臣

松田竹十代 殿

社団法人 日本図書館協会

理事長 中村祐吉

大学における図書館学科目の設置を拡大増強するの件

去る昭和34年5月29日名古屋市で開催した全国図書館大会において全国の国公立大学で図書館学を教授している者がほとんど全員集合し、以下の件を満場一致で可決しました。よって参加者の総意を代表して、その速やかな実現を要望するため、ここに陳情致します。

要 望 事 項

1. 大学の一般教養課程に図書館学科目を設置せられたい

理 由

近時大学学生の学力の低下が問題になっておりますが、これの対策の一つとして学生の自学自習を徹底する必要があります。

これを奨励する方法は、図書館における学生の活動を盛んにすることであり、これについて研究と勉学に必要な文献および資料の検索法や資料の利用法を指導する必要があります。

これについては現在図書館員が随時指導をしている大学もありますが、大部分の大学は人員の不足、事務繁忙のため指導していないのが実状であります。よってこれを大学の正規の必修科目で指導するため図書館学科目を設置し、組織的、計画的に指導すれば、学生の図書館資料の利用により、大学の目的たる研究活動は飛躍的に進展するものと信じます。その故に速かに図書館学科目を設置するよう、予算その他の措置を講じられ、この要望にこたえるよう実施されたい。

2. 大学の専門課程に図書館学の科目を設置し、または科目を設置している大学においては図書館学科を設立あるいはその内容を拡大、増強せられたい。

理 由

近時図書館の発展にともない、専門取扱い司書教諭司書の養成のため図書館学科設置は緊急の要望となっていることは周知の通りであります。また社会教育主事の養成課程にも図書館学が必修になり、この学科設置の必要性はますます重要になってきました。

現在国立の大学にこの学科目を設置しているのは、わずか4に過ぎず、その単位も2単位か4単位であります。

これでは社会の要望を満すことは出来ず図書館の振興は思いもよらず、将来図書館の発展を期待は出来ません。

殊に学校図書館法に規定した司書教諭も現在変則的な講習によって資格を取解している実状であります。

これでは要求せられるような活動を完全に行うことは出来ません。それに伴う法規を改正し、これを刷新改善するため図書館学科の設置されていない大学にはこれを早急に設置し、すでに設置しある大学においては、この学科の内容を拡大、増強して社会の要望にこたえるよう、予算その他の措置を講じて、実現するよう御努力を願いたい。

以上

Ⅱ 図書館学教育関係文献

A 邦文雑誌論文目録

図書館員教育に関する邦文雑誌論文目録

海老沢有道等 現場ではこんな人がほしい
<アンケート> 図書館雑誌 53巻4号
1959年4月

現場の図書館長 事務長等5名の人が、
現場側から図書館員教育に対する希望をのべている。

大学図書館関係者は主として語学力と文献
に関する知識を求め、公共図書館関係者は主
として開拓精神の心がまえと、教育と現場
とのずれに対する認識を要望して居り、それ
ぞれの態様の特徴をあらわしている。

眞藤鈴江 私の夫は司書教諭 学校図書館
106号 1959年8月

夫婦とらつて司書教諭として共かせぎをし
ている筆者の生活記録であり、学科担任の一
般教諭より重労働を続けなければならぬ司
書教諭の姿がよく画かれている。

榎本恵一等 学生たちはこう言うく座談会
> 図書館雑誌 53巻 1959年4月

東京図書館学校の学生3名と図書館取組養
成所の学生4名、計7名の学生だけによる図

書館学校生活についての座談会である。入
学動機、カリキュラム論 教育と現場の問
題等をとり上げて、かなり自由に発言して
いる。

学校側の発表している公式の見解とは対
照的な、時には批判も交った座談会となつ
ている。

藤川正信 1958年の図書館、図書館
学界 図書館雑誌 52巻12号 1958
年12月

1958年の図書館学研究のうごきを回
顧している。

藤川正信 司書教諭性格論 学校図書館
106号 1959年8月

司書教諭の定義、職務内容 現在の向題
点と将来の展望等について学校図書館法、
「学校図書館運営の手引」等を引用し乍ら
論じ、司書教諭の補正等を実質的ならしめ
る必要を説いている。

藤川正信 図書館員のありかた びぶろ
す 10巻4号 1959年4月

専門図書館員のありかたについて、成つ
かの事項をあげて解説したものである。

藤川正信 図書館員養成の諸問題 図書館
学会年報 5巻2号 1958年10月

全体を全般的問題、専門養成機関、インター
ン制、現職教育、通信教育、将来にわけて
論じている。

図書館養成問題に関し、広い視野から多く
のトピックスをとり上げているが、養成問題
に関する本格的発言であり、将来の問題の中
でカリキュラムに関する具体的試案を発表し
ているか、同感し得る点が多い。

服部金太郎 図書館職員養成所の昨今 図
書館雑誌 52巻4号 1958年4月

図書館職員養成所の現状を写真入りで簡単
に紹介している。

棚田 豊 専任司書教諭の歩み 学校図
書館 106号 1959年8月

愛知県庫島高等学校の専任司書教諭である
筆者が歩んできた道を具体的にのべている。
専任司書教諭が学校内でどのように扱われ
どのような業務にたずさわっているか、どの
ような問題点があるかを示して居り、司書教
諭の職に在る人々、これから目指す人々への好
資料である。

平塚禪定 学校司書をどうする 学校図
書館法の改正を望む 学校図書館 102号
1959年4月

学校図書館に多くはたらいている高校生の
学校司書の身分の改正を扱ったものである。

図書館法 学校図書館法の何れにおいても
学校司書(事務職員)は法的にふれられてい
ないが、学校図書館法の中で法的に身分の安
定をはかるための私案を幾つかあげている。

伊東正勝 1958年の図書館 図書館

学教育 図書館雑誌 52巻12号

1958年12月

1958年における図書館学教育のうご
きとして、大学の図書館学教育、司書、司
書補講習、司書教諭講習、研究、集会活動
の現状を回顧している。

加賀栄治 図書館教育に対する根本的
考え方 学校図書館 97号 1958年
11月

学校図書館における図書館教育、図書館
教育課程に関する根本的考え方のべてい
る。

金子浩 学校司書をどうする 関係諸
法の改正に望む 学校図書館 102号
1959年4月

学校司書 司書教諭は現在法的に保障さ
れてないが、筆者は学校図書館法、図書館
法等の改正で具体的に改めてもらいたい点を插
入している。

藤池 租 15単位の講習だけではだめ
だ 図書館雑誌 53巻4号 1959年
4月

現在おこなわれている司書、司書補講習
を現行制度のまま実施するとすれば、15単
位講習では不十分であることを指摘してい
る。

筆者の論旨は(1) 司書、司書補の講
習科目は二本立とし、合併講義をやめる。

(2) 司書には図書館学の補助科学、応
用科学の知識をさすけ、司書補には図書館
学の基礎知識に履するものをさすける。(3)
大学生、高校生とも司書補講習による資格
取得者でなければ、司書講習は受けれない
この結果司書講習修了者は最低30単位修

得を要する。(4) 個々の科目を検討するには司書に必要な知識技術が究明されなければならず、そのためには公共図書館の協力体制図書館網の観点に立った機能分析が必要である等である。

北島武彦 大学における図書館学教育の現状 図書館雑誌 53巻4号 1959年4月

昨年名古屋大会で新発足した教育部会の準備会当時、すなわち1958年7月、図書館職員養成所が各大学、短期大学に依頼しておこなった「図書館学用講状況調査」をもとにしてまとめたものである。

大学の図書館学用講状況をその地域別、科目、単位、担当教官等の面から分析している。

Lohrer, Mary A. アメリカにおける司書教諭養成計画 1900-1944年 渡辺正次訳 図書館界 10巻1号 1958年4月

昨1959年慶応義塾大学図書館学科訪問教授として来日したイリノイ大学のアリス・ローラー女史が、1944年同大学に提出したM.Aの学位論文である。

表題に示されているようにアメリカにおける20世紀前半の司書養成計画、とくに中学校の司書養成計画について述べたものである。

原論文は7章及び附録から成っているが、この号の訳文は3章までで未完である。

三宅千代二 現行司書教諭制度を批判する 学校図書館 106号 1959年8月
現行学校図書館法の司書教諭制度は空文に等しく、之を改めて司書教諭を学校必置にすべきことを指摘している。そのためにはこゝ

数年末に迫っている小・中学校児童生徒の漸減期がまたとない好機であることを説いている。

文部省図書館職員養成所、慶応義塾大学図書館学科 東洋大学 図書館員の教育をこう進めている。図書館雑誌 53巻4号 1959年4月

現在日本の図書館界で本格的な図書館員教育を実施している三つの図書館学校が、それぞれの沿革、教育方針、教育内容、教授陣、卒業生の進路、将来計画等について学校側の立場からのべている。

森 博等 慶応の研究集会を終えてく座談会 図書館雑誌 52巻10号 1958年10月

1958年7月、慶応大学図書館学校でおこなわれた「公共図書館研究集会」への参加が、研究集会に対する評価、感想を座談会でのべたものをまとめたものである。

中村初雄 図書館研究団体の歩み 図書館界 11巻2号 1959年8月

戦後誕生した各学会、研究会等の動向を跡づけたもので、すくないペースの中に要領よくまとめられている。

仙田正雄 図書館員の養成 図書館界 11巻2号 1959年8月

同誌が50号記念特号として「戦後日本における図書館学の発展」を回顧したがこの論文はその一篇である。

図書館員の養成制度、大学における養成講習、図書館学教育等について簡潔に回顧している。

清水正輝 司書教諭・学校司書・生徒

図書館委員 その只争の人間像について 学校
図書館 106号 1959年8月.

京都滋野中学における筆者の至験に依り、
表題の人々の姿を画いている。

高官 誠 わが図書館界の黎明期とロバ-
ート・L・ギトラー博士の功績。机 7巻
12号 1956年12月

慶応義塾大学図書館学科創設者として日本
の図書館界に大きな足跡を残したギトラー博
士の業績を紹介したものである。

山下茂雄 司書教諭の24時間 学校図
書館 106号 1959年8月

高知県下の小学校司書教諭である筆者の実
験記録である。

B. 英文の部 (1958~1959)

1 Anderson, Le Moyne W., and
Kell, Bill L. Human relations
training for librarians?
College and Research Libraries.
vol. 19, no 3, May, 1958.
P. 227-229.

近來アメリカの大学では余りに技術に偏
重した傾向が見られるが、すぐれた医者や
法学家が人間とのものの深い知識を持って
いるように、図書館員たる者もまた読者を
理解する力を構えなければならない。社会
学者、心理学者の助力を得て、半年の基礎
理論と、半年の実践的至験を得させること
が考えられる。

2. A library student looks forward.
Lib. World, vol. 59 (696), Jan.

1958, p. 162-164.

大学における図書館学校では、単に資
格を与えるのみでなく、人格を高め、も
のを秀げる基本能力が養われねばならな
い。現場の優秀な館員から話を聞いたり
、それに基づいて討論が行われることが望
ましい。

3. Sharr, F.A. What's the use of
cataloguing and classification?
Australian Lib. J., vol. 7,
no. 3, Jul. 1958. P. 65-67.

中央で分類や目録が行われる傾向が強
くなっている今日、有用性と応用能力の
面から見て、分類と目録の扱いは中途半
端な観を呈している。選抜がじゆうぶん
に行われていなければ、技術面を強調し
ても役に立たない。試験制度におけるこ
の面の過大視も改められねばならない。

4 Paton, W. B. Staff training
in libraries Lib. Ass. Record,
vol. 60, no. 8, Aug. 1958.
P. 243-248.

現職教育を成功させるには、具体的な
個人的な指導と共に、各都課の能力と教
育計画の慎重な立案が基となる。ラナー
クシマー公共図書館においては販買組合
があつて研究、教育活動を行い、また雑
談も発行して意見の交換と上層部との交
流を円滑化している。

5. Darling, Richard L. Library
teaching program. Lib. J.,
vol. 83, no 17, Oct. 1,
1958. P. 2625-2627.

図書館利用に關する教員の知識の不足。

を補うためにモンタナ州立大学で新たに設けたコース。図書と図書館の利用を概括し、書誌の作成法、資料の提示法も教える。利用に供する図書および雑誌のリストも添えられている。

6. Shera, Jesse H. Education for for documentation. Special Libraries, vol. 9, no. 8, Oct., 1958. P. 389-390.

1947年から現在まで発展してきたウエスタン・リザーブ大学図書館学科のドキュメンテーション関係の講座をあげ、ドキュメンテーションの意義が図書館員の理解を得ることにより、この面が発達すると説いている。

7. Collings, Dorothy. Meeting the needs of foreign students. Lib. Jc., vol. 83, no. 19, Nov 1, 1958. P. 3064-3068.

1956年以來コロンビア図書館学校では、外国学生のために比較図書館学の講座を設けている。大学院程度の学生を対象とし、各国の実情を紹介、検討して自国の事情を明かにする機会を与えるため。

8. Leigh, Robert D. Work-study and the trainee program. Wilson Lib. Bull., vol. 33 no. 3, Nov. 1958, P. 219-222

コロンビア大学における会議で、理論面と実践面における教育のありがたが論じられた。学生の獲得、図書館学校における養成計画、各クラスの構成、レポートの作成、などが討議された。

9. Majewski, Zygmunt. Training of documentation technicians in Poland. Revue de la Documentation, vol. 25, no. 4, Nov. 1958. P. 101-104.

ポーランドにおける科学・技術ドキュメンテーションの実情紹介に続いて、ドキュメンタリストの具備すべき条件を挙げ、2ヶ年に亘る養成計画を詳細にリストしている。

10. Yenawine, Wayne S. Education for academic librarianship. College and Research Lib., vol. 19, no. 6, Nov, 1958. P 479-486. 501.

学術機関における図書館の役割は館員の能力により左右される。この面で図書館学校における養成は必ずしもじゅうぶんであるとは言えない。学生は主題知識を持ち、外国語も理解する必要がある。カリキュラム面の改正と、各方面との協力が望ましい。

11. Skaffer, Kenneth R. The case method in library education. ibid. p. 487-490.

大学院課程においては、従来の教授方法では足りず、他の方法が必要とされる。シモンズ大学では試験的に事例研究を課して、報告と討議による問題解決の方法を手えた。

12. Powell, Lawrence Clark. Administration in one carry lesson Wilson Lib Bull., vol. 33, no. 6, Feb, 1959. P 419

管理者と取扱は相互を理解し信用しあわねばならない。館員の快力機構は極めて重要な意味を持ち、彼等の行動を理解するために管理者は読者と対し、館員の声に耳を傾けねばならない。

13. Thomas, Carol. Human relations in the library: supervision at all levels. Wilson Lib. Bull., vol. 33, no 6, 1959. P. 422-423.

サービス、館員の獲得、確保、監督等の面で人間関係をよく保つことが重要視される。権利を代行させることも重大であり、また部下の昇進に当っては公平な態度を臨むべきである。服務規定を厳にすると同時に、個人的には暖い態度を取らねばならない。

14. Byrd, Cecil K. School for administrators. The Rutgers Carnegie project and Research Libs., vol. 20, no. 2, Mar, 1959. P 130-133, 153.

管理については図書館学校ではごく限られた面しか教授できないので、レトガースの大学では試験的にいくつかのコースを設けて、現職館員に研修の機会を与えた。

15. Skrypnev, N. The 'Krupskaja' State Library Institute. Leningrad Unesco Bull. for Libs., vol. 13, no. 4, Apr. 1959. P. 84-86.

1918年以來の歴史を説き、9,000におよぶ卒業生と、現在の発展に言及する

と共に、図書館学、書誌学のコースの内容がある。

16. Page, Felicity. Staff training: an aspect of public relations. Lib. World, vol 60. (707), May, 1959. P. 241-242

サービス改善のためには館員が各部の機能を熟知する必要がある。また会合で自分の意見を発表し、時局知識を伸ばす機会が与えられねばならない。現職教育に際しては、更に基本的技能を必要とする者と、業務に満足を感じそれを充実しようとする者にわけける方が効果がある。

17. Lohse, Gerhart und Pauer, Max. Der Nachwuchs für den höheren Bibliotheksdienst in Westdeutschland. Zentralblatt für Bib. und. Bib., Jg. 6, Hft 2, 1959. S. 130-137.

戦後1946-1959に亘って、2つの図書館学校における館員養成の事態を調査した報告。

18. Danton, J. Periam. Doctoral study in librarianship in the United States. College and Research Libs., vol. 20, no. 6, Nov. 1959. P. 435-453. 458.

1930-1959に至る図書館学教育の正史の中で博士号が生れた過程と、それに伴う論文を各方面から分析し何種点やその価値を論じて、将来への示唆を与えると共に、全論文のリストを収録し

ている。(藤川担当)

С. ソ連の部

Казанцев Л.В.: Развитие
библиотечно-образовательное
в СССР

(В. Кн. 40 лет библиотечного
стороительства в СССР.
1958, с 21-31)

Скрыпнев Н.П. Ленинградскому
библиотечному институту...40
лет

(Библиотечкарь, 1958 №12,
с 20-27)

Фирсов Т.Т. Сорок лет Ленинградского
государственного
библиотечного института
имени Н.К. Крупской...
(советская библиография
вып 52, 1958, с 4-12)

Кутелькова Е. Ближе к жизни,
к практике.

(Библиотечкарь 1959 №1
с 27-30)

Они бюджет библиотечкарями
(Знамя труда 1959 12 февр)

Троацкая-Рудина Т.: Озаочном
образовании библиотечкарей
(Библиотечкарь 1958 №10/12,
с 27-29)

Сулбе Н.Д.: Повышение квалифи-
кации библиотечных
работников

(Библиотеч-библиотр информ-
ация 8-к Акад Наук
СССР и акад. наук союзных

республик №019 1958
с 103-124)

Шерман Л.: Ну жон АОМ библиотечкаря
в Москве

(Библиотечкарь №11 с 61)

Шенгелия Г.: Двадцатилетие
библиотечного факультета
(Библиотечкарь №8 СГР.25)

Тимофеев Е.: Новое в обучении
будущих библиотечкарей
(Библиотечкарь №9. с 42)

Скрыпнев Н.: Готовим кадры
ТЮ-Новому
(Библиотечкарь №11 с 37-39)

Егорова В.: Молодой библиотечкарь
(Библиотечкарь №4. с 33-34)

Соколован.: Перестроим произво-
дственную практику
(Библиотечкарь №10 с 48-51)

Сборник учебно-методических
материалов Харьков 1958.
769р.

(Харьковский Гос библиотеч-
ин-т)

お知らせとお願い

1. この号から編集は、藤川・北島・和田幹事がやることになりました。
2. 事務局の武田君は協会をおやめになったので、菅原君にかわって頂きました。
3. 会費納入者氏名（なほオ5号からは、二ユース・レターおよび資料の印刷部数を制限したいと思いますので、会費未納のかたおよび、入会希望のかたは早く手続きを完了して下さい。）

慶応大学図書館学科

中	村	初	雄
藤	川	正	信
浜	田	敏	郎
渡	辺	茂	男
室	伏		武
沢	本	寿	久

神奈川県立図書館

長	沢	規	矩也
---	---	---	----

明治大学図書館

奥	村	藤	嗣
---	---	---	---

北海道大学図書館

山	田	幸	彦
---	---	---	---

以上 9 名